

アナログプレイヤーの比較試聴(32)

—モーツアルトを聴く(32)—

1. 始めに

前報(31)に引き続き、アナログプレイヤー3機種 of 比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン 2539 312～313

モーツアルト ピアノ協奏曲 20 番

ピアノ協奏曲 21 番

ピアノ協奏曲 25 番

ピアノ協奏曲 27 番

フリードリッヒ・グルダ (ピアノ)

クラウディオ・アバド指揮ウイーンフィル

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。また、LINN LP-12 の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを 2 ケ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告した TruPhase から 300B アンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用しています。

さらにダンパーフレークの導入(5)で報告したとおり ThorensTD124 と Grrad401 のカートリッジシエルにもダンパーフレークを適用しています。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

上記4曲とも、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorensTD124 では、TACU-1 とダンパーフレークの効果で艶やかなウイーンフィルをバックに、華麗で力強いグルダのピアノが聴かれます。

LINN LP-12 では、TACU-1 とダンパーフレークの効果で繊細かつ艶やかなウイーンフィルをバックに、華麗でかつ細かい表情も生き生きとしたグルダのピアノが聴かれます。

Grrad401 では、TACU-1 とダンパーフレークの効果で、厚みのあるオーケストラをバックにダイナミックで押出のあるピアノの演奏です。

4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、さらに、カートリッジのシェルへのダンパーフレークの適用効果もあって、すべてにおいて、グレード上がってきている印象です。

以上